2021.4.16
No.59
UNIRITAユーザ会ホームページ
http://www.uniritauser.jp

UNIRITA Users' Group

ユニリタ ユーザ会 ニュース

CONTENTS

02 第37回UNIRITAユーザシンポジウムご報告
04 第37回UNIRITAユーザシンポジウム受賞報告
06 研究グループメンバインタビュー
08 2021年度 研究テーマ及び概要一覧
10 UNIRITAユーザ会の主な活動内容/年間スケジュール
11 役員・代表の紹介
12 2021年度メンバ募集

第37回 UNIRITA ユーザシンポジウムご報告

2021年3月5日
オンライン開催

第37回UNIRITAユーザシンポジウムが、オンラインで開催されました。今回は、全国から171社709名の方にご参加をいただき、活気溢れる1日となりました。

UNIRITAユーザ会定時総会はユーザシンポジウムに合わせてあらかじめWeb総会として開かれ、各会員企業様の登録代表者の皆さまにご投票をお願いしました。皆さまのご協力のおかげで無事議案が承認されましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。

全体会では、後藤会長による開会のご挨拶およびWeb総会の結果報告、シンポジウムの見所のご案内が行われました。

全体会の後は、研究発表13グループ、パートナーセッション4つ、事例発表3つ、ユニリタグループによるプレゼンテーションが1つ行われました。また、お昼には和田明日香さんによるクッキングショーも行われました。どのセッションも視聴者数が多く、ご参加いただいた皆さまの関心の高さが窺えました。

研究発表では、聴講者の投票によって評点が決まることもあり、発表者は緊張の面持ちで今年度の研究活動の集大成を発表しました。

表彰式では、優秀な評価を得た研究発表、事例発表の表彰が華々しく行われました。

最優秀事例発表賞は、ソフトバンク株式会社様による「幸せを引き寄せるXXX～Waha! Transformerと歩むライフサイクル問題～」、優秀事例発表賞はauカブコム証券株式会社様による「auカブコム流SREのやりかた」及び株式会社オカムラ様による「働き方改革を支援するポータル基盤の刷新～どんな情報が社内外に発信されているの？パスワードだらけで面倒！を整理整頓～」が受賞されました。

今回は初めての試みとしてオンラインでのシンポジウムを行いましたが、非常に多くの方にご参加いただき、盛況のうちに終了することができました。

これもひとえにご参加いただいた多くのお客様と、お力添えをいただいた協賛パートナー企業様のおかげです。誠にありがとうございました。

第38回UNIRITAユーザシンポジウムは2022年3月に開催予定です。
次回も多くの皆さまの積極的なご参加を心よりお待ちしております。

ちょっと休憩♪

ユーザシンポジウム クッキングショー

スタッフレビュー

第37回UNIRITAユーザシンポジウムのお昼休みは、和田明日香さんによるクッキングショーでした！

クッキングショー

「ITに興味は？」という問いに、「興味はないです！」と豪語された和田さん。スタッフもびっくりでした(笑)というのは冗談で、日々ITであらゆることを便利にしてもらっている実感や感謝があると仰っておられました。

コロナ禍で和田さんもステイホームのお仕事が増えて、意外と自宅でもお仕事できるなと感じているそうです。それもITの成せる技ですね。

ステイホームで料理を作る機会が増えていることについて、料理家としては嬉しいが、作らなくてはいけないという義務感や、料理を作ることの苦手意識、栄養の偏りを心配されていました。そこで、これら全てを解決するレシピをクッキングショーでご披露いただきました。ほったらかしでできる簡単焼うどんに、うどんで使った材料で作るついでにスープ。合理的、効率的、時短、簡単で、栄養満点！目から鱗でした。作っていただいたお料理は、残念ながら新型コロナの影響でご本人以外食べられず、試食は叶いませんでしたが、後日ご紹介のレシピで作ってみました！ネギがなかったのでキャベツで代行しましたが、すごく簡単で美味しかったです！

普段、和田さんはAlexaにタイマーをお願いしているそうで、今回も計って貰おうとしたのですが、テストはバッチリだったのに本番では反応してくれず。

調理器具は全て和田さんの持ち込みで、さすが料理家と感じました！

和田明日香

わだ あすか。東京都出身。3児の母。料理研究家・平野レミの次男と結婚後、修行を重ね、食育インストラクターの資格を取得。各メディアでのオリジナルレシピ紹介、企業へのレシピ提供など、料理家としての活動のほか、各地での講演会、コラム執筆、CM出演など、幅広く活動。著書に『ほったらかしレシピ』、『子どもは相棒 悩まない子育て』など。

【公式ブログ】https://lineblog.me/askawada/

撮影

テレビやインタビューでは割り切ったイメージの方ですが、実際にお話ししてみると常に「ありがとうございます」という言葉が出る方で、ユーザ会の説明も熱心に聞き入ってくださる気遣いの方でした。終了後には、その場でキーワードチャレンジのプレゼント本にサインをしてくださいました。

今回ご紹介されたレシピ

豚キムうどん

火をつけずに、フライパンに豚バラをハサミで切って並べ、塩コショウ、ネギ、茹でうどんを順番に並べる。キムチとみりんと味噌を混ぜた合わせ調味料をかけ、もやしを入れて蓋をして中火で5分ほったらかす。軽く混ぜ炒めたら皿に盛り、仕上げに卵黄をトッピング。

- 豚バラ薄切り肉…80g
- 長ネギ…10cm程度
- 茹でうどん…1玉
- キムチ…80g
- 味噌…大さじ1
- みりん…大さじ1
- もやし…50g
- 塩…少々
- 黒胡椒…少々
- 卵黄…1個分

ついでに

スープ

豚キムうどんをほったらかしている間に、フライパンにごま油をひき、ネギ、もやしをしっかり炒める。水と鶏ガラスープの素を加え、ポイントに焼き海苔を入れる。煮立ったら卵白を軽く混ぜてからスープに加え、最後にいりごまを捻りながら入れる。

- 長ネギ…5cm
- もやし…30g
- ごま油…大さじ1
- 水…200ml
- 鶏ガラスープの素…小さじ1
- 焼き海苔…1/2枚
- 卵白…1個
- いりごま…少々

第37回UNIRITAユーザシンポジウム

受賞報告

研究グループ活動賞

最優秀活動賞

東日本情報活用研究部会

IE04:リモートワークのベストプラクティス

三密回避でも業務は密に！会わなくても業務は進む？！
～最適なツールのご提案～

出光興産株式会社	飯島 可織
エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社	木村 遼斗
株式会社エムアンドシーシステム	岩野 大地
株式会社エムアンドシーシステム	竹内 はるみ
MS&ADシステムズ株式会社	岡林 智子
第一生命情報システム株式会社	三須 安佑子
ニッセイ情報テクノロジー株式会社	関本 雅章
パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社	加藤 三奈子
株式会社ユニリタ	永松 岳大

優秀活動賞

東日本情報活用研究部会

IE03:リモートワークのベストプラクティス

ネクストノーマル時代の
リモートコミュニケーション
～全集中！会議の呼吸～

出光興産株式会社	福永 泰史
株式会社エムアンドシーシステム	日向 香織
MS&ADシステムズ株式会社	安達 佳穂里
MS&ADシステムズ株式会社	五丁 剛司
株式会社紀伊國屋書店	藤井 裕之
第一生命情報システム株式会社	長谷川 舞
株式会社リンクレア	山口 亜弓
株式会社YE DIGITAL	大津 椋太郎
株式会社ユニリタ	大須賀 一暢

優秀活動賞

東日本情報活用研究部会

IE01:リモートワークのベストプラクティス

令和式コミュニケーション
～OnlineとOfflineの垣根をこえて～

出光興産株式会社	浅村 竹彦
エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社	白倉 拓哉
MS&ADシステムズ株式会社	近藤 陽平
MS&ADシステムズ株式会社	山口 直記
株式会社KYOSO	本間 衛
株式会社システムフロンティア	田所 友洋
株式会社匠BusinessPlace	清水 康平
株式会社日本総合研究所	岩松 英俊
株式会社ユニリタ	渡辺 栄治

優秀活動賞

東日本情報活用研究部会

IE06:リモートワークのベストプラクティス

立場×性格で考える
テレワークガイドライン
～一人異ロケーションでも心は一つ～

出光興産株式会社	篠原 賢司
株式会社NSP	小林 昭博
MS&ADシステムズ株式会社	志村 隼人
カシオ計算機株式会社	宇津巻 栞那
三愛石油株式会社	緒方 啓元
株式会社全農ビジネスサポート	高尾 知夏
株式会社THS	張 艶
ニッセイ情報テクノロジー株式会社	井口 恒男
株式会社ユニリタ	植田 真

審査員特別賞

東日本システム運用研究部会

OE01:IT運用業務のリモートワーク実現

テレワークを前提とした
ビジネスモデルの検討
～毎日出社するって本気ですか？～

AGSプロサービス株式会社	中川 裕二
株式会社エムアンドシーシステム	永瀬 幸一
カシオ計算機株式会社	吉成 大輔
さくら情報システム	大久保 祐里奈
SOMPOシステムズ株式会社	足立 茂泰
株式会社タカインフォテクノ	澁谷 恭平
TDIプロダクトソリューション株式会社	横田 直樹
ニッセイ情報テクノロジー株式会社	福光 純子
株式会社ユニリタ	清水 薫

審査員特別賞

西日本・九州地区研究部会

WK02:最新技術で実現するコミュニケーション革新とリモートワークの在り方

異なる視点から考える、より適切な
『リモートワーク導入』とは

株式会社インフォセンス	三木 弘哉
株式会社K-BIT	高下 広貴
コベルコソフトサービス株式会社	福原 将倫
株式会社ダイフク	藤田 喜久子
南海マネジメントサービス株式会社	森本 千恵
ニッセイ情報テクノロジー株式会社	西田 俊樹
日本精線株式会社	佐々木 拓真
株式会社ユニリタプラス	馬込 秀紀
株式会社ユニリタプラス	髙橋 志音

審査員特別賞

西日本・九州地区研究部会

WK03:最新技術で実現するコミュニケーション革新とリモートワークの在り方

緊急事態！
リモートワーク始めました
～コミュニケーションの自粛はやめよう～

旭化成株式会社	海老原 諒
小浦石油株式会社	有本 ユカリ
株式会社オージス総研	本田 創史郎
情報技術開発株式会社	東 孝憲
株式会社ダイフク	髙松 利幸
TDIシステムサービス株式会社	深澤 南美
ニッセイ情報テクノロジー株式会社	髙橋 大介
株式会社ユニリタプラス	黒田 浩子
株式会社ユニリタプラス	吉岡 佳音

活動賞　東日本情報活用研究部会

IE05:リモートワークのベストプラクティス

あしたから実践したくなる！'ニューノーマル'な人材育成

株式会社アークシステム	鈴木 修太
出光興産株式会社	柳内 洋子
エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社	小山 大吉
MS&ADシステムズ株式会社	葛西 美和子
MS&ADシステムズ株式会社	片桐 悠樹
第一生命情報システム株式会社	大道 慶一
TDIプロダクトソリューション株式会社	萩原 靖晃
株式会社ユニリタ	新里 亮太

活動賞　西日本・九州地区研究部会

WK04:最新技術で実現するコミュニケーション革新とリモートワークの在り方

テレワークをNew Normal時代に根付かせよう！
新技術を使った快適リモートワークに迫る

第一工業製薬株式会社	川口 幸佳
ニッセイ情報テクノロジー株式会社	小林 英夫
ニッセイ情報テクノロジー株式会社	山岡 大典
株式会社ノエビアホールディングス	吉岡 麻那
ユニチカ株式会社	國貞 浩良
株式会社リンクレア	安仁屋 政利
株式会社ユニリタプラス	梅村 材
株式会社ユニリタプラス	橋本 学

活動賞　東日本情報活用研究部会

IE02:リモートワークのベストプラクティス

心と体を幸せにするリモートワーク

MS&ADシステムズ株式会社	舘 仁美
MS&ADシステムズ株式会社	丹治 直子
株式会社システムフロンティア	田中 佑弥
株式会社スコープ	石川 祐市
株式会社リンクレア	髙松 賢太
株式会社ユニリタ	近藤 智彦

活動賞　中部地区研究部会

GN01:開発・運用現場におけるリモートワーク改善

リモートワーク時代のWeb会議
～三密しないで密なコミュニケーション～

東海EC株式会社	臂折 祐治
株式会社トヨタシステムズ	木村 直哉
株式会社トヨタシステムズ	山本 広基
生活協同組合連合会東海コープ事業連合	村田 隆輔
日東工業株式会社	榊原 明寛
株式会社ユニリタ	植田 龍平

活動賞　西日本・九州地区研究部会

WK01:最新技術で実現するコミュニケーション革新とリモートワークの在り方

リモートワークあるある場面の解消方法
～目指せ週休3日～

オージス総研	小濱 芳春
京セラ株式会社	髙坂 健一
情報技術開発株式会社	石井 芳直
SOMPOシステムズ株式会社	浅川 慎
ニッセイ情報テクノロジー	篠原 志穂
ユニチカ株式会社	関谷 佑美
株式会社リンクレア	山下 晋弥
株式会社ユニリタプラス	北方 一騎
株式会社ユニリタプラス	谷口 宏士

活動賞　東日本システム運用研究部会

OE02:IT運用業務のリモートワーク実現

IT運用業務のリモートワークにおける陰と陽

出光興産株式会社	菖蒲 直人
株式会社インフォテクノ朝日	小林 大洋
AGSプロサービス株式会社	宮田 直樹
株式会社エムアンドシーシステム	福岡 友美
株式会社KYOSO	倭村 明宏
株式会社クエスト	杉山 亨
SOMPOシステムズ株式会社	田澤 一倫
第一生命情報システム	井尻 雄介
株式会社ユニリタ	瀧澤 隆弘

最優秀事例発表賞

ソフトバンク株式会社　小島 一憲 氏
製品名：Waha!Transformer

幸せを引き寄せるXXX
～Waha! Transformerと歩むライフサイクル問題～

優秀事例発表賞

auカブコム証券株式会社　岩井 大輔 氏
製品名：LMIS

auカブコム流SREのやりかた

株式会社オカムラ　坂 隼輝 氏
製品名：DWF

働き方改革を支援するポータル基盤の刷新
～どんな情報が社内外に発信されているの？パスワードだらけで面倒！を整理整頓～

研究グループメンバインタビュー

第37回UNIRITAユーザシンポジウムにて、「最優秀活動賞」を受賞されたIE04「リモートワークのベストプラクティス」研究グループのお二人にお話を伺いました。
リーダを務められたNTTコムウェア株式会社の木村遼斗さんと、サブリーダとシンポジウムでの発表者を務められた株式会社エムアンドシーシステムの竹内はるみさんに、今年度の研究活動について当時を思い出しながら振り返っていただきました。

＼INTERVIEW／

木村 遼斗 さん
NTTコムウェア株式会社

竹内 はるみ さん
株式会社エムアンドシーシステム

第37回UNIRITAユーザシンポジウム
最優秀活動賞受賞
東日本情報活用研究部会
IE04「リモートワークのベストプラクティス」

8月 メンバ募集

研究テーマを選んだときの理由やモチベーションなどをお聞かせください。

木村

リモートワークという身近なテーマだったため参加しました。4月5月に育児休職をしていたこともあり、ワークライフバランスを充実させることについて興味がありました。

竹内

短時間勤務のため、リモートで開催される今回しかない、と思い参加しました。また、自社でもリモートワークが推進されていたため、研究活動で良い学びがあればと考えていました。

9月 全体会

初会合となる「春の全体会」に臨む際はどのような心境でしたか？

木村

社外の方とのコネクションを作りたいと思っていました。各社が課題に対してどのようなアプローチで解決しているかなど、自社に持ち帰れるようなナレッジの情報交換をしたいと思っていました。

竹内

ここ数年間他社との関わりがなかったため、他の会社の方がどういう環境で働いているかを聞いたり、交流ができたらと考えていました。

11月 グループリーダ会議

グループリーダ会議の時点でのグループの状況についてお聞かせください。

木村

自分たちのグループは順調に進んでいると感じていました。活動の序盤にグループ内で、最適なツールを提案する班、仮説を検証する班、新規ツールを提案する班の3つの班に分けました。グループリーダ会議の時点では、この3つの班が並行して活動していくという体制ができていました。
また、リモートワークにおけるコミュニケーションというテーマで研究を進めていましたが、他のグループでも同様のテーマで研究しているグループがあったため、今後どのように差別化を図るかが課題と感じていました。

1月 冬の全体会

シンポジウムまで2か月を切った時期ですが、計画は予定通り進んでいましたか？

木村

スケジュール通りには進んでおらず、計画の1か月遅れという状況でした。3班に分けたことは良かったのですが、アウトプットをつなぐところが難しかったですね。また、よかった点としては、作成したチャットボットが癒しになっていたことですね。研究活動のスケジュールをリマインドするように設定していました。

竹内

全体会から発表者を担当しました。3班に分けた内容が少しづつできているけれども、全体がまったく見えない状態での中間報告だったので、バタバタだった印象です。全体がどうやったらまとまるかが不安だった1月でした。

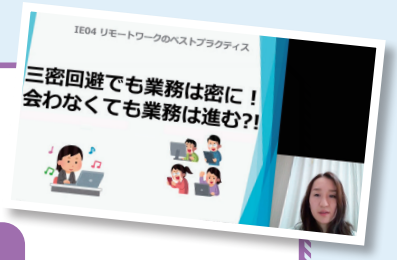
2月 発表練習会

ご自身のグループの発表と他グループの発表の感想をお聞かせください。

竹内

１回目の時点ではすべて完成はしておらず、どういう風に伝えればみんなが興味を持って聴いてくれるのか、というトライアルで発表をしました。そのときに堅苦しすぎたかな、と思ったので２回目では、何も知らない人にも伝わるように、どこに重点を置いて話をすべきかを意識して発表をしました。２回目では発表の仕方を工夫したところ、なんとなく反応が良かったかなと感じたので、それを元に本番の準備を進めました。また、他のグループの発表を聴いて、発表の仕方によって内容の伝わりやすさが変わるということをすごく感じました。

3月 シンポジウム



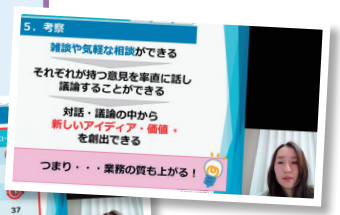
グループの発表や表彰式について、当日の様子をお聞かせください。

木村

審査員特別賞あたりは受賞できるかな、と予想していたメンバがいました。自分も期待はしていましたが、結果として最優秀活動賞を受賞できて非常に感動しました。特に表彰式の演出が良く、リモート参加というのを感じさせないくらい素晴らしかったです。
シンポジウム終了後にはグループでWeb会議をしましたが、メンバの中には感動して涙が出てきたという方もいました。

竹内

発表前は緊張していて、スマホを落として画面が割れてしまったりとワタワタしていましたが、自宅でパソコンに向かってといういつもと同じ環境だったので、落ち着いて発表できました。発表後は終わったなぁという感じで、他のセッションの発表を聴いていました。ここまで頑張ったから何かしら賞は欲しいと思っていましたが、最優秀活動賞を受賞できるとは思っていなかったので、グループ名を呼ばれたときはびっくりしました。表彰式の演出が受賞できたことを感じさせてくれて、とても嬉しかったです。



１年間研究した感想をお聞かせください。

木村

フラットに新たなアイデアを考えられて、グループ内でディスカッションできたことが楽しかったです。グループを３班に分けて活動したことが、勉強になりました。Web会議の性質上、少人数が適しているということもあり、班分けをすることで活動の活性化が達成できたことが良かった点です。一方で班同士のつなぎが難しく、横断的な対応を円滑にする方法が欲しかった点が反省点でもあり、今後の活動に活かしていきたい点です。

竹内

多くの他社の方たちとオンラインで議論を重ねることは難しいのかなと思っていましたが、実際にやってみてオフラインとあまり変わらないということに気づけました。環境の違うメンバと一つの課題に向かってやっていく中で、何をやるかやスケジュールをどうするかを決めないと案外動けないということや、それを前提としてチームワークを築いていくことの大切さが勉強になりました。チームとして動くということがどういう風に難しいのかを身をもって体験できてよかったです。

研究活動で学んだことを業務でどのように活かしていきますか？

木村

コミュニケーションツールの性質を研究できたので、日常業務でもどのツールを使うべきなのかを考えながら業務を行うことで活かしていきたいです。また、研究活動でチャットボットを開発しましたが、リモートワークでチャットデータが増えていて、新たなビジネスチャンスが出てきているので、有効活用できるような手段の企画・研究に携わることができたらいいなと思っています。

竹内

発表者をさせていただいたなかで、どうやったら人に伝わるかを考える機会がありました。みんなが求めていることは何かを考えながら業務を進めることの大切さをすごく感じたので、今後の業務に活かしていきたいです。

▶シンポジウム終了後のWeb懇親会

2021年度 UNIRITAユーザ会

研究テーマおよび研究概要一覧

UNIRITAユーザ会では今年度も活発に研究部会活動を行っていただくべく、研究グループメンバの募集を行います。
今年度も地域ごとに旬なテーマをご用意して会員企業様のご参加をお待ちしております。

東日本地区

IE01 情報活用

これからのIT

#IT全般

参加者は情報システム部やITベンダーのマネジメント層です。ITの課題に対する最新技術による解決策や導入実績を提供し合い、会社を離れた情報交換の場を提供します。また、ユーザ会に参加する研究部会メンバへの支援を行います。

IE02 情報活用

5Gのビジネス活用法

#働き方改革 #テレワーク #リモートワーク

近年注目されている「5G」は、4Gの通信速度と比較して100倍以上高速であり、大量データの転送、超低遅延、大量接続を実現することができると言われています。数年後を見据えた「5G」のビジネス活用方法について研究します。

IE03 情報活用

デジタルトランスフォーメーションと人工知能の進化

#デジタルトランスフォーメーション
#AI・機械学習

近年、DX＝ビジネス変革という流れがあり、様々な企業の成功事例が公開されています。DXを支える技術の一つに人工知能が挙げられますが、DXにおいて人工知能が果たす役割について、検討と検証を行います。

IE04 情報活用

画像・映像認識技術のビジネス活用

#画像・映像認識 #IoT #エッジコンピューティング

近年、画像・映像認識の技術は、人の映像を利用したセキュリティ強化や、顧客行動の可視化によるマーケティング施策の精度の向上など、様々な業界で活用されています。最新の技術を企業の事業活動にどう活用できるかを研究します。

IE05 情報活用

無人化(セルフ化)の波は人間の生活をどこまで変化させるか

#無人化 #IoT #電子決済
#AI・機械学習 #パーソナライゼーション

IoTやセンサー、AI、電子決済などの技術を組み合わせた「無人化」(セルフ化)の動きが世界中で活発になっています。無人化に関わるIT技術や課題について学び、無人化がもたらす変化と無人化ビジネスの可能性について研究します。

IE06 情報活用

コンテナ技術を活かしたクラウド活用

#クラウドアプリケーション
#コンテナ運用管理

Kubernetesがコンテナ化されたアプリケーションの管理技術としてスタンダードとなっています。コンテナ化されたクラウドアプリケーションの仕組みや管理について学び、コンテナ技術を活かしたクラウド活用について研究します。

IE07 情報活用

基幹システムの近代化

#基幹システム #クラウド移行 #技術継承 #シニアエンジニア活用

長年基幹システムを支えてきたベテラン技術者が定年を迎え、その匠の知見を継承できずに、メンテナンスを止めてクラウドサービスに切り替える企業も増えています。既存のシステムをどうやって近代化すべきかについて研究します。

IE08 情報活用

本当に有効なPoC

#PoC

アイディアや概念を検証し新しいビジネスを生み出す「PoC」(Proof of Concept)という取り組みが増えています。技術とビジネスの両面で学び、成果を出すために有効な方法について具体的な導入を含め、研究します。

IE09 情報活用

IT駆動のシステム開発に必要なチームマネジメント

#OKR #システム開発 #チームマネジメント

仕事の目的や目標に変化が起こり、大手企業は「OKR」というフレームワークを用いて企業と個人の目標をリンクして成果を上げるような取り組みが行われています。仕事の変化を理解し、健全なマネジメントを実現する研究をします。

IE10 情報活用

災害に強いビジネスモデルを創るIT技術とは

#ディザスタリカバリ #クラウド
#リモートワーク

災害対策について意識が高まり、DRサイト構築など事業継続に関する整備、さらに想定外の事態の対策が必要とされています。リモートワークなどによる内側、顧客に価値を届けるためのサービス化という外側の両面について研究します。

OE01 システム運用

運用管理事例

#事例

情報システム部やITベンダーのマネジメント層の方が対象です。ITの課題に対する最新技術による解決策や導入実績などの情報交換の場を提供します。複数年参加を基本とし、研究や発表というスタイルを取りません。

OE02 システム運用

マルチクラウド時代に必要なBCP/DR対策

#マルチクラウド #BCP #DR

マルチクラウド時代を迎える中、業務影響から見たリスクの見極めと対策について、考慮すべきBCP(事業継続性計画)/DR対策(災害復旧)について研究します。

OE03 システム運用

IoT製品をサイバー攻撃から守るセキュリティ対策

#IoT #セキュリティ

IoTを採用して進めるビジネスも増加傾向にあり、本格的にセキュリティ対策を検討する必要があります。IoTを利用する上での課題を運用視点で整理し、今後のビジネス活用に向け、IoTのセキュリティ対策を研究します。

OE04 システム運用

IT運用業務の完全自動化実現

#自動化 #IT運用業務

IT運用業務の"完全"自動化を達成するために、運用現場にあるあらゆるデータ(例えば、キャパシティ管理などのデータ)から目指す自動化の取り組みが有効かを研究します。

OE05 システム運用

問合せ記録のデータマイニングからの顧客満足度向上

#ビックデータ #データマイニング
#顧客満足度向上

顧客満足度向上などに取り組むべきデータマイニングなどにチャレンジし、一般論で終わらせず、どのように取り組めばデータを効果的に活用できるかをより具体的に研究します。

OE06 システム運用

欧米IT企業と日本IT企業の比較によるIT部門の魅力度向上策検討

#欧米IT企業 #働き方改革 #モチベーション

欧米IT企業の働き方を題材に研究を進め、仕事のやりがい、働き方、評価、等について考える機会から改革を起こし、自社の採用難の現状に一石を投じる研究をします。

研究活動の流れ ［主な活動とスケジュール］ 予定は変更される可能性があります。

5月

春の全体会

研究活動のキックオフとして全国で春の全体会を開催します。全体に対してオリエンテーションを行ったあとは、グループごとに分かれて初回の会合を行います。これから1年間、一緒に研究活動を進めていくメンバ、コーディネータと初めての顔合わせです。自己紹介や今後の進め方などを決めていき、研究活動がスタートします。

7月

合同合宿

日帰りや1泊2日での合同合宿を開催します。何にも邪魔されない環境で研究テーマの深掘りや議論に集中でき、メンバとの親睦も深まりますのでぜひご参加ください。

9~10月

グループリーダ会議

各グループのリーダが集まり、研究活動の進捗を報告します。他グループのリーダや代表・副代表と意見交換することより、今後のグループ活動をよりよくしていきましょう。

注意事項

2021年度の研究活動は、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、当面はオンラインで行う予定です。
そのため、研究部会の参加者は以下の参加条件を満たす必要があります。
・カメラ、スピーカー、マイクが搭載されたPCもしくはタブレット端末を持っていること
・インターネット環境が整っていること

対象　部門長　マネージャ　一般・若手・中堅

情報活用　情報活用研究部会　　システム運用　システム運用研究部会
合同　合同研究部会　　情報活用・システム運用　情報活用・システム運用研究部会

OE07　システム運用

堅牢なメインフレーム活用の今後の方向性

#メインフレーム

今後もメインフレーム活用を推進するために、メインフレームの強み・弱みを捉え、クラウドの活用が進み始めた今だからできるクラウドとの差別化を行い、今後のメインフレーム活用をどのように考えればよいかを明らかにする研究をします。

OE08　システム運用

IT運用から提案する新たなサービス企画

#サービス企画 #サブスクリプションモデル #ベンダ・メーカ協業

これまでのIT運用知見を活用することは勿論、新たなサービスの立ち上げ方法などを学びつつ、デジタル時代の今だからこそ企業で求められているサービスを再考し、どんなサービスが提供できるのか可能性を考えます。

OE09　システム運用

デジタル時代の新スキルマップ

#デジタル時代のスキルマップ #ITSS+

今後目指すIT運用の姿を明確にし、若手社員にも分かり易い、デジタル時代の新スキルマップをどのように作成していけば良いか、またどのように育成をしていけば良いかを具体的に研究します。

中部地区

IN01　情報活用

意思決定のためのデータ分析、活用手法

#データ分析 #データ活用 #5G #IoT #ビッグデータ

膨大なデータが社会や企業に溢れる昨今、経営層や事業部門が迅速に意思決定するため、各種データの分析や活用のスキルが求められています。データを分析、活用し事業貢献、新たな価値を創造するための手法や技術について研究します。

ON01　システム運用

デジタルセルフサービスによる業務改善

#デジタルセルフサービス #業務改善 #DX #リモートワーク #運用の省力化 #ノンボイス

顧客体験の向上や運用の省力化を目的に、SNSツールやAIチャットボット等、様々なデジタルセルフサービスの導入が進んでいます。デジタルセルフサービスの導入事例、期待される効果、DX時代の運用業務改善について研究します。

GN01　合同

DX推進における情報システム部門の果たすべき役割

#DX #IT組織変革 #技術変革

「2025年の崖」に向けた変革手段として位置づけられたDXは、コロナ禍により各企業での取り組みが加速化しています。こうした中で、情報システム部門がDX推進に果たすべき役割と部門変革に向けた手段について研究します。

西日本地区

IW01　情報活用

IoTを活用した業務改革

#IoT #ビッグデータ #デジタルビジネス

近年、製造や物流の現場だけではなく、IoTに関連した多くの製品やサービスがあります。今後、次世代通信「5G」などで、さらにIoT化が進むと予想されます。IoTを活用し、業務改革につながるサービスの提供を研究します。

IW02　情報活用

AIと人材育成

#AI #機械学習 #数学 #人材育成 #Kaggle

近年のAIを活用したビジネス変革ニーズは高まるばかりです。経済産業省は、2030年のAI人材時用に対し、12万人不足するとの予測を示しています。急務といえる、AI人材育成と求められるスキルについて研究します。

OW01　システム運用

RPAの進化と他システム連携

#RPA #API

RPAの導入は、大手企業においては半数を超え、普及が進んでいます。また、RPAも進化し、APIを使った複数システムとの連携も増えてきました。RPAにおける複数システム連携を行う際の活用方法について研究します。

OW02　システム運用

ニューノーマル時代のIT運用とコミュニケーションとモチベーション

#ワークライフバランス #ニューノーマル #コミュニケーション #モチベーション

コロナの影響でIT運用も変化を迫られました。様々な基盤対策や働き方の変化により、関与者の位置、時間、関係性が変わってきています。これからのIT運用と、それを支えるコミュニケーションとモチベーションの在り方を研究します。

GW01　合同

業務変革とIT活用

#攻めのIT #DX #事業継続計画 #人材活用

IT全般について、あり方や活用方法を研究します。DX、ニューノーマル対応など、参加メンバが各社で抱える問題・課題について、情報交換し身近な解決策を探っていきます。

GW02　合同

IT部門におけるDX推進

#DX #2025年の崖

多くの企業がITを活用した新ビジネスを創出し、企業の競争力を高めるため、DXに取り組み始めました。注目の最新のテクノロジーを取り入れながら、IT部門は、どのようにDX推進に関わり、進めていくのかについて、研究します。

GW03　合同

リモートワークによる生産性向上

#働き方改革 #テレワーク #リモートワーク #コミュニケーション

コロナ禍、リモートワークが急速に普及しましたが、メリットやデメリット、課題点も見え始めてきました。アフターコロナを見据え、リモートワークを主軸とした働き方がどのように生産性の向上に貢献できるかについて研究します。

九州地区

IKOK01　情報活用・システム運用

クラウドを活用したDXの取り組み

#クラウド #スマート化 #DX

2025年の崖まであと4年。経済産業省の「DXレポート2」によると、「DX着手企業」と「DX未着手企業」の二極化が進んでいます。コロナによって高まったDXの緊急性について、クラウドに焦点を当てた研究を行います。

12月

冬の全体会

春の全体会から7ヶ月、それぞれの地区の全グループが一堂に会します。各グループから研究活動の進捗報告、3月のシンポジウムに向けた発表講習などを実施し、研究活動のまとめに臨みましょう。また、全体会後の懇親会では、シンポジウムでの発表枠の抽選も行います。

1～2月

発表練習会

研究活動も大詰めとなり、シンポジウムに向けた発表練習会を行います。他グループや幹事・代表・副代表を前に発表練習を行い、フィードバックを得てさらに磨きをかけていきましょう。

3月

シンポジウム

1年の活動の集大成！九州で開催するシンポジウムで研究発表を行います。有終の美を飾るのは一体どのグループでしょうか！？

UNIRITA Users' Group

UNIRITAユーザ会の主な活動内容

※写真は2019年度のものです。

■研究部会活動

参加ユーザの自主的な運営で、地区ごとにテーマを設定しテーマごとの研究グループが1年間研究活動を行います。

■ユーザシンポジウム

1年間のユーザ会活動の締めくくりとして、研究部会活動発表、ユーザ各社の事例発表の場として、「ユーザシンポジウム」を開催しています。

■情報交換活動

【ITゼミナール】

各地区の方を中心に、会員企業の階層ごとに最新技術情報のテーマを設定し、幅広い分野での意見交換・討議の場として開催しています。

【マネジメント研究会】

全国の部門長クラスの方々を対象に、マネジメントの立場から見た情報システムにまつわる最新の話題を幅広く取り上げ、情報交換を中心に開催しています。

■〈UNIRITAユーザ会〉2021年度年間スケジュール（2021年4月～2022年3月）

		2021年4月	2021年5月	2021年6月	2021年7月	2021年8月	2021年9月	2021年10月	2021年11月	2021年12月	2022年1月	2022年2月	2022年3月
幹事会・研究部会運営会議 等		運営会議 4/23(金)						意見交換会 10/15(金)	運営会議 11/10(水)			幹事会 2/4(金)	準備会
				幹事会 6/11(金)					幹事会 11/19(金)				
東日本	情報活用研究部会		春の全体会		合同合宿					冬の全体会			ユーザシンポジウム
	システム運用研究部会				合同合宿								
	東日本ITゼミナール												
	情活グループリーダ会議						9/15(水)						
	運用グループリーダ会議						9/8(水)						
中部	情報活用研究部会		春の全体会		合同合宿					冬の全体会			
	システム運用研究部会												
	合同研究部会												
	中部ITゼミナール												
	合同グループリーダ会議							10/6(水)					
西日本	情報活用研究部会		春の全体会		合同合宿					冬の全体会			
	システム運用研究部会												
	合同研究部会												
	西日本ITゼミナール												
	合同グループリーダ会議							10/7(木)					
九州	情報活用・システム運用合同研究部会		春の全体会		合同合宿					冬の全体会			
	九州ITゼミナール												
	グループリーダ会議							10/5(火)					
マネジメント研究会				東京	九州		大阪	中部					
1dayセミナー					7-11月 随時開催								

役員・代表の紹介

2021年度のUNIRITAユーザ会役員・代表の方々をご紹介します。

役員

会長
後藤 聖央
ソニー生命保険株式会社
執行役員 ITデジタル戦略本部
本部長 兼 同本部
基盤システム統括部 統括部長

幹事
河村 優司
さくら情報システム株式会社
常務執行役員
サービス事業本部 本部長

幹事
山口 公晃
京葉ガス情報システム株式会社
取締役営業企画部長

幹事
久保 知裕
出光興産株式会社
情報システム部 部長

幹事
根崎 周一
生活協同組合連合会
東海コープ事業連合
専務理事

幹事
井上 勝
第一生命情報システム株式会社
経営企画部 部長

幹事
田中 久子
SOMPOシステムズ株式会社
執行役員 ITサービス本部長

幹事
丸田 俊彦
ANAシステムズ株式会社
エグゼクティブエンジニア

幹事
深沢 修
旭化成株式会社
パフォーマンスプロダクツ事業本部
企画管理部 業務推進室 室長 兼
IT統括部 部付

幹事
中俣 幸二
リコーITソリューションズ株式会社
ビジネスプロセス革新事業部
インフラマネジメント部 部長

幹事
髙橋 博実
三菱UFJインフォメーション
テクノロジー株式会社
デジタルプロデュース部 部長

会計幹事
野村 剛一
株式会社ユニリタ
執行役員

東日本地区代表

情報活用研究部会代表
田中 豊久
株式会社匠BusinessPlace

システム運用研究部会代表
坂巻 弘織
出光興産株式会社

中部地区代表

情報活用・合同研究部会代表
山口 聡
株式会社ダリヤ

システム運用研究部会代表
杉本 浩彰
株式会社トヨタシステムズ

西日本地区代表

情報活用・合同研究部会代表
近藤 寿和
ユニチカ株式会社

システム運用研究部会代表
坂元 弘樹
株式会社CACオルビス

九州地区代表

情報活用・システム運用
研究部会代表
永浦 秀敏
株式会社インフォセンス

ITゼミナール代表

ITゼミナール代表
中俣 幸二（兼任）
リコーITソリューションズ株式会社

マネジメント研究会会長

マネジメント研究会会長
山口 公晃（兼任）
京葉ガス情報システム株式会社

2021年度
研究メンバ募集について

UNIRITA ユーザ会は、様々な業種、様々なIT環境のメンバが集まる人脈形成の場であり、また、他のユーザ会と異なる大きな特徴として、1年を通した研究活動による技術力向上をテーマにした活動を中心としていることがあげられ、人材育成の場としても活用していただけます。

UNIRITAユーザ会では2021年度の研究部会メンバを募集しております。

研究部会のキックオフとなる春の全体会は5月に開催いたします。研究メンバ同士の顔合わせの場となるだけでなく、1年間の研究内容の方向性が決定される場でもありますので、ぜひ、春の全体会からのご参加をお願いいたします。

写真はオンライン及び対面での活動イメージです。

ご参加者・ご参加者上司の声

2020年度研究部会へ部下の方を参加させたことに関するご感想

- 他社との交流、チームでの研究、若手のひとりは発表も行い、技術スキル以外に大切な事がこれからの業務に大いに役立ったと思います。
- 社外の方と協力して物事を進める経験が有益であったと本人から聞きました。参加してよかったと思います。
- 研究を通じていろんな会社の方と関わる機会があり刺激になったと申しておりました。来年度以降も参加に向け検討させていただきます。

研究部会活動へのご感想

- 時間や活動内容が制限される中での活動でしたが、メンバー間と連絡を頻繁にとりあって研究をまとめるようにしました。貴重な経験をさせていただき有難うございました。
- 他社の方と研究を行うことは、普段経験することが無かったのでいい経験となった。
- 初参加でしたが、例年と異なる研究部会活動となったことが伝わりました。その中での活動は自身にとって実りのあるものであったと感じています。
- オンラインを通しての参加は初めてで他社の方と色々な意見交換ができとても良い機会でした。今後も自身の成長に繋げられるよう頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

お申し込み・詳細はユーザ会ホームページをご覧ください。2021年度の全国の研究テーマの詳細を公開しています。
「ユニリタユーザ会」で検索！ ▶https://www.uniritauser.jp/

編集後記
事務局より

第37回UNIRITA ユーザシンポジウム オンライン開催

今回のUNIRITAユーザシンポジウムは初めての試みとなるオンライン開催となりました。皆さまに支えられて、事故なく無事に終わることができました。この場を借りて御礼申しあげます。さて、月日が経つのは早いもので、あっという間に2021年度の研究メンバ募集が始まりました。研究活動は、5月の春の全体会からキックオフを行い始動します。当面の間はオンラインによる活動になるかと思いますが、是非ご参加を検討いただければ幸いです。
来年は福岡にて皆さまにお会いできることを願っております。

UNIRITA Users' Group　UNIRITAユーザ会ニュース　No.59　発行日：2021年4月16日

編集発行：UNIRITAユーザ会事務局　〒108-6029　東京都港区港南2-15-1品川インターシティA棟29階 株式会社ユニリタ内
Phone：03-5463-6412　Fax：03-5463-6392　E-Mail：usergrp@unirita.co.jp　URL：https://www.uniritauser.jp/